



2019年6月14日

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

「空飛ぶクルマ」をはじめとする先端技術の実証事業への参画 ～大阪における「未来社会の実験場」の実現、推進に向けての支援開始～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社（取締役社長：西澤 敬二、以下「損保ジャパン日本興亜」）は、他の民間事業者・団体と相互に連携・協力し、大阪府、大阪市、大阪商工会議所により構成する「実証事業推進チーム大阪」が取り組む、先端技術を活用した各種の実証事業へ参画し、大阪における革新的なビジネスの社会実装に向けた支援を開始します。

1. 背景・目的

- ・ 大阪府、大阪市、大阪商工会議所は、「2025年大阪・関西万博」を見据えて、大阪における民間企業の実証事業の支援メニューを拡充・強化し、2030年代には都市での人の移動などへも利用拡大が期待される、いわゆる「空飛ぶクルマ」の実証支援に向けた環境整備を推進する計画を本日発表しました。
- ・ 経済産業省および国土交通省は、2018年に「空の移動革命に向けた官民協議会」を発足し、保険制度や被害者救済ルール等の必要性が表記される等、「空飛ぶクルマ」の社会実装に向けた機運が高まっています。
- ・ 損保ジャパン日本興亜は、2016年7月に大阪府、2019年1月に大阪市とそれぞれ大阪経済の活性化や住民の「安全・安心・健康」の促進に係わる包括連携協定を締結しています。このたび損保ジャパン日本興亜は、大阪での「空飛ぶクルマ」の実証事業の実現・推進のため、「実証事業推進チーム大阪」と緊密に連携し、安全・安心の観点で支援するサービス提供を行うこととしました。

2. 損保ジャパン日本興亜が提供するサービス

(1) 先端技術に係わる『実証実験リスクアセスメント』の策定支援

「空飛ぶクルマ」や自動運転、スマートシティ等に係わるリスクを総合的に洗い出し、評価実施するリスクアセスメントが実証事業には必要となります。SOMPOホールディングスグループのSOMPOリスクマネジメント株式会社（取締役社長：布施 康）は、リスクアセスメントに関する高いノウハウを保有しており、それらを活かした策定支援を実施します。

(2) 空飛ぶクルマ・実証実験向け保険商品の提供

既存の保険をベースに、空飛ぶクルマを開発中の企業に対して、空飛ぶクルマの使用、運航方法、適用法、規制をふまえた保険商品を提供予定です。

(3) 『事故発生時危機管理マニュアル』の策定支援

実証事業中に万が一事故が発生した場合の関係者の対応をまとめた『事故発生時危機管理マニュアル』の策定を支援します。

3. 今後について

損保ジャパン日本興亜は、「MaaS」や「スマートシティ」の社会実装に対しても、安心・安全のパートナーの観点で、大阪を始め各地でリスクアセスメント・マネジメントの協力を行います。

以上

ご参考

実証事業支援拡充メニューへの参加主体 ※2019年6月14日大阪商工会議所発表文より抜粋

■ 実証事業推進チーム大阪

大阪府、大阪市、大阪商工会議所は、先端技術を活用した各種対象分野の実証事業の実施、成果普及を通じた地域の産業振興、経済の活性化を目的として、3者横断による実証事業推進チームを設置し、大阪での先進的な実証事業を希望する事業者を大阪内外から広く募り、実証事業が円滑・効果的に実施できるよう支援する体制を構築しています。

■ 「実証フィールドの提供」に協力する民間企業・団体

新たに今回、小川航空株式会社（舞洲ヘリポート）、学校法人常翔学園（大阪工業大学梅田キャンパス1階OITギャラリー）が加わります。

■ 「実証支援サービスの提供」を行う民間企業・団体

損保ジャパン日本興亜および株式会社NTTドコモ（5Gの技術検証環境「ドコモ5Gオープンラボ」）が新たに加わります。

【損保ジャパン日本興亜の空飛ぶクルマ実証支援への参画イメージ】

